

文学研究科の学位授与の方針 (Diploma Policy ; DP)

成蹊大学は、「教育の目標（人材育成方針）」を踏まえ、次のように学位授与の方針を定める。

「専門分野の知識・理解」「教養の修得」「課題の発見と解決」「他者との協働」「自発性、積極性」「表現力、発信力」の各項目に関して以下の要件をすべて満たし、かつ本方針を踏まえて作成された各学科、専攻の教育課程において所定の単位を修得した者に対して所定の学位を授与する。

<大学共通>

【教養の修得】

(DP1) 人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関して、それぞれの分野の基本的な概念と基礎となる思考方法を理解し、人間社会の諸問題を多角的に把握するための論理的かつ総合的な思考力を身に付けている。

【課題の発見と解決】

(DP2) 社会の諸問題を理解するために必要な情報（日本語または英語で書かれた文献、統計等を含む）を調査収集し、本質的な課題を発見・解決するために、調査収集した情報を的確に分析する能力（語学力に裏打ちされた読解力を含む。）を身に付けている。

【他者との協働】

(DP3) 多様な文化、環境、状況のもとで、多様な価値観を理解し他者を思いやり、他者の意思や感情を的確に理解して意思の疎通を行うコミュニケーション力（語学力を含む。）と協調性を身に付けている。

【自発性、積極性】

(DP4) 特別な教育プログラムや学外活動（留学、インターンシップ、ボランティア等を含む）に積極的に挑戦した経験を有し、生涯学び続けようとする強い自発的意志を有している。

【表現力、発信力】

(DP5) 自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を、外に向けて発信できる豊かな表現力を身に付けている。

<文学研究科>

文学研究科は、言語、文学、歴史、思想等に関わる伝統文化を継承しながら、新たな知見を生み出して社会に寄与することを基本理念とし、それに沿ったカリキュラムを編成し実施している。教育の目標は人間と社会に対する広範な理解および探究心と、高度な専門知識と能力を持った専門職業人や広く深い専門的素養を身につけた人材、ならびに問題を発見し追究する能力に富み、学問的創造性を発揮しうる優れた学術研究者の育成である。博士前期課程では、入学者それぞれの希望や目的に応じた「研究コース」「総合コース」「英語教育コース」（英米文学専攻）の各カリキュラムによる教育を実施し、博士後期課程はそれぞれの専攻に関連する分野に応じ、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持った研究者・専門家として自立しうる人材を養成することを目的としたカリキュラムを実施している。その課程を修了して学位を授与されるためには、学生には以下のことが求められている。

【博士前期課程】

(DP6) 研究コースにあつては、所定の年限在籍して、文学研究科が教育と研究の理念と目的に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる 30 単位を修得して、さらに修士論文の審査および試験に合格することが学位授与の要件である。

(DP7) 総合コースおよび英語教育コース（英米文学専攻）にあつては、所定の年限在籍して、文学研究科が教育と研究の理念と目的に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる 34 単位を修得して、さらに指導教授の指導のもとで作成した「特定課題研究の成果」の審査および試験に合格することが学位授与の要件である。

(DP8) いずれのコースにあつても優れた学識を備え、専門分野における創造性豊かな研究能力や高度な専門職業人等として活動するのに必要な広い知的素養と能力の修得が課程修了者に期待されている。また、いずれの専攻にあつても、専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって活動する意識を身につけていることが重視される。

(DP9) 修士論文および特定課題研究の成果に関する評価の基準として、次を定める。

[修士論文評価の基準]

- 1 研究テーマの学問的意義および独創性
- 2 問題探究意識の高さ
- 3 先行研究への目配りおよび取扱いの適切性
- 4 論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
- 5 資料の収集および調査方法の適切性
- 6 表現および表記法の適切さ

[特定課題研究の成果評価の基準]

- 1 特定課題に対する取り組み方の適切性
- 2 先行研究への目配りおよび取扱いの適切性
- 3 論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
- 4 資料の収集および調査方法の適切性
- 5 表現および表記法の適切さ

【博士後期課程】

(D P 6) 所定の年限在籍して、文学研究科の教育と研究の理念と目的に沿った研究指導を受け、かつ標準修業年限内に博士論文の審査および最終試験に合格することが、課程修了の要件である。

(D P 7) 研究者として自立して活動しあるいは高度な専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につけているかどうか、課程修了の目安となる。

(D P 8) いずれの専攻にあっても、専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって活動する意識を身につけていることが重視される。

(D P 9) 博士論文評価の基準として、次を定める。

上記の修士論文評価の基準に加えて、学界に対する学術的寄与の度合い等が評価される。